

②大学生指導員の養成・確保に関する実証事業 企画提案書（事業概要資料）

事業計画名	地方小規模都市の部活動地域移行に関する持続的な大学生指導者活用に向けて
事業概要	①牧之原市への大学生部活動指導者派遣に関わる効果・課題検証 大学生人材資源の活用について先行研究で課題として挙げられている指導者の「教育への理解不足」への懸念を可能な限り払拭できると考えられる教育学部生やスポーツ指導員を目指す学生の派遣を行い、受け入れ側の参加者・牧之原市関係者などへ当該種目への興味・関心・継続希望、指導者などに関する調査を行い、大学生指導者には、自身への影響、研修・バックアップ体制、賃金、継続希望などに関する調査を行い、さらにマッチングなどの過程も含め、それらの効果・課題を整理し、検証を行う。 ②様々な地域の取り組みと大学生指導者派遣を踏まえての小規模都市である牧之原市における最適なモデルの提案 人口約4万人の牧之原市では、中学校部活動の地域移行に伴い、指導者不足により生徒に提供できる部活動が限定されるという課題が挙げられている。牧之原市の実情把握の上、同様の各地域での取り組みの視察と①を踏まえ、最適と考えられるモデルを検討し提案する。

■大学生の養成・確保に当たっての仕組みやフロー

大学生指導者の確保について、先行研究で中学校などの部活動指導者や生徒の保護者などから懸念されている指導者の「学校教育への理解不足」を可能な限り払しょくする手立てとして、指導者の候補を限定する。将来教員を志し、教職課程に取り組み、児童・生徒への学校教育を理解している・しようとしている教育学部生約1100名と、将来スポーツ指導者を志し、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者取得のための授業を受講し、運動指導に関しての意欲・知見があると考えられる学生約30名へ派遣希望調査を行う。昨年度の調査で52名から協力可能との回答があったことや、昨年度派遣された大学生指導者も継続希望であるため、大学生指導者確保の実現可能性は極めて高いと言える。

大学生指導者の養成に関しては、昨年度の学内プロジェクトの大学生生活用事業でも、指導に慣れていない種目の初期の段階では課題がみられた。専門家による指導を行った後には指導にも大幅な改善がみられ、大学生指導者自身にとっても非常に有益なものになったとの回答もあったことから、専門家による指導などが必要であると考えられた。そこで、可能な限りの準備と改善を目指し、大学生指導者への事前の研修講義に加え、準備段階での専門家との指導内容等の打ち合わせ、専門家の初回帯同及び事後指導などを行う計画である。

フロー

大学生へのスポーツ指導希望調査

牧之原市のニーズとのマッチング

派遣大学生指導者の決定

研修講義

専門家との指導内容の打ち合わせ

専門家の初回帯同と事後指導

■実証事業の検証・評価方法

①大学生部活動指導者派遣に関する効果・課題について

派遣実施後、児童・生徒、大学生指導者、牧之原市関係者へ大学生部活動指導者の効果や問題点について、さらに大学生指導者には研修・バックアップ体制などについても調査を行い、その評価を行う。

②牧之原市への最適なモデルの提言について

牧之原市の実情把握様々な地域の取り組みへの視察を踏まえ、モデルの提言を行い、牧之原市教育委員会・部活動地域移行検討委員会・スポーツ推進課・企画政策課など関係者へのアンケート・聞き取り調査により、その評価を行う。

■事業の実施体制図（学内体制に留まらず、地域の組織・団体との連携体制も示すこと）

